

No.	⑪	分類	2-(2)-イ	資料名	わくわくボード	学年	4 年	領域	道徳	2-(3)
-----	---	----	---------	-----	---------	----	-----	----	----	-------

1 ねらい

- 友だちに関わる課題解決の方法を考えるを通して、身近な課題を解決しようとする意欲や態度を身につける。

2 趣旨

- 障害のある友だちを肯定的に受け止めながらその友だちの思いを知り、自分にできる関わり方を考えることが、一人一人を大切にしたい社会を築くことにつながっていくことに気づかせる。
- 学級の友だちの苦手なことを解決していくことで、学級のみんなが楽しく学校生活を送れるようになることに気づかせる。

3 配慮事項

- 学級に障害のある児童が在籍している場合、障害の状況や保護者の気持ち、学級の実態などを十分把握し、連携を保ちながら指導することが必要である。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 「ぼく」のすすむさんへの思いについて考える。 「ぼく」は、すすむさんのことをどう思っているのでしょうか。 ・本が好きでいろいろなことを知っている。 ・言いたいことが伝わらないと、泣いたり怒ったりする。 ・関わり方が難しい。	・「どうしたらいいか分からなくなってしまった」に着目させ、上手くコミュニケーションが取れずに困っているぼくの思いに共感させる。
2 みかさんがすすむさんに声をかけた理由を考える。 「ぼく」は、すすむさんに声をかけたみかさんをどう思っているのでしょうか。 ・3年生の時からよく相談にのっている。 ・心配しているんだな。 ・いつも気にかけているな。	・みかさんの友だちに寄り添う姿勢に着目させ、この姿勢が相互理解や良好な人間関係を築くことにつながることに気づかせる。
3 「ぼく」が、すすむさんのことをなぜ先生に相談したのかを考える。 「ぼく」は、なぜすすむさんのことを先生に相談したのでしょうか。 ・すすむさんが笑顔になってほしいから。 ・すすむさんのことをみんなに分かってほしいから。 ・みかさんの思いを知ったから。	・友だちのことで先生に相談した経験を想起させ、先生に相談することは、自分には何ができるかを考えた結果としての行動であることに気づかせる。
4 学級のみんなが、楽しく学校生活を送れるようになる方法を考える。 どうしたら学級のみんなが、楽しく学校生活を送れるようになるのでしょうか。 ・困っている人がいたら助ける。 ・問題が起きたらみんなで解決する。 ・いじめは絶対にしない。 ・困ったことがあれば、友だちに相談する。	・学級活動等で話し合った議題などを振り返り、身近な課題を自ら解決していこうとする意欲や態度を身につけさせる。 ・学級の課題を取り上げる際は、特定の児童を責めることのないように配慮する。